

バンコクの大気汚染について 一般調査報告書

タイでは通常11月から2月頃が乾季となります。意外かもしれませんが、バンコクでも、12月になると朝晩に涼しく感じる日もあり、この季節は降水量も少なく1年で最も過ごしやすい気候となります。

クリスマスやニューイヤーイベントなどの時期とも重なり、バンコクではショッピングモールにイルミネーションが飾り付けられ賑やかな雰囲気となることから、中国を中心に近隣国や日本からも多くの観光客が訪れています。

一方で、この時期は空気が乾燥し風があまり吹かないことから、車の排気ガスなどが滞留し、空気が悪くなることが多いのですが、今年は特にひどく街が白く霞む日が続き、PM2.5（微小粒子状物質）による大気汚染が深刻な社会問題となっています。

バンコク都内にある観測ポイントでは、PM2.5の安全基準となるAQI（Air Quality Index）指数が、安全基準の50を大きく超える2倍から3倍にもなる日が続き、様々なメディアやSNSなどで、大気汚染の状況や健康被害への影響が伝えられたこともあり、普段ほとんど見かけることのなかったマスクを着けて歩く人の姿が、大変多くなりました。バンコクの小売店や薬局ではマスクの売り上げが急増し、購入の数量制限をする店もあり、バンコク産業情報センターのあるジェトロバンコクでも、PM2.5対策用のマスクをスタッフに配布しました。

（タイの大気基準）

AQI	意味	警告
25以下	非常に良い	空気品質は非常に良く、屋外活動や観光に適する。
26～50	良い	空気品質は良く、屋外活動や観光は通常通りに行える。
51～100	並	一般の方：通常通りに屋外活動を行える。 敏感な方：咳・呼吸困難・目のかゆみ等の症状がでたら、屋外活動の時間を減らすべく。
101～200	健康に影響を及ぼし始める	一般の方：健康管理をしっかりとし、咳・呼吸困難・目のかゆみ等の症状がでたら、屋外活動の時間を減らし、又は、必要な防具を使うべく。 敏感な方：屋外活動の時間を減らし、又は、必要な防具を使うべく。咳・呼吸困難・目の炎症・胸が苦しい・頭痛・不整脈・嘔吐・疲労感等の健康被害がでたら、医者に相談するべく。
201以上	健康に影響を及ぼす	皆がすべての屋外活動を控えるべき、高い汚染地域を避ける又は必要な防具を使ってください。 健康被害がでたら、医者に相談するべく。

バンコクでは、1月31日からは2日間、幼稚園や学校を臨時休校とし、これに合わせ、日本人学校や日系幼稚園も休校となることが発表されました。また、交差点などで時々見かける花輪を売る人が最近ではマスクを売っていたり、お寺で参拝者に対し煙の出る線香の使用を控えるよう呼びかけるなど、これまでになく大気汚染に対する人々の関心が高まっています。

(BTSの駅から見た街の様子)



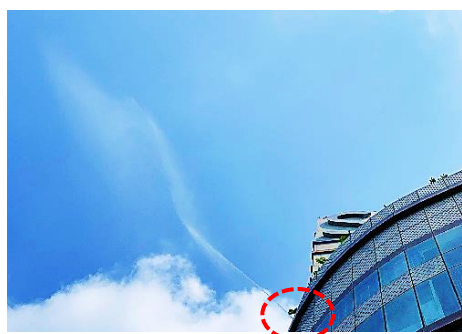
(マスクをつけて歩く人の様子)



タイ政府は、PM2.5の発生要因として、ディーゼル車の不完全燃焼が60%、農業の野焼きが35%を占め、バンコクで現在多く行われているビルや鉄道などの建設工事から出る粉塵も、大気汚染に大きく影響していることを発表し、様々な対策を矢継ぎ早に打ち出しました。

まず、飛行機やドローンを使って人工雨を降らせる計画を発表したほか、ビルの屋上から散水するなど、空気中に舞い上がる粉塵を抑える取り組みを行っています。

(ビルの屋上からの散水)



(散水車の様子)



PM2.5の最も大きな原因であるディーゼル車に対しては、トラックなどの検問を実施し、バンコクへの移動回避を要請したり、車検の検査方法の改善や、バンコク都バスに関し、排気ガスの汚染物質がより少ないバイオディーゼルの割合が多い燃料「B20」への切替え促進を決定しました。

また、タイ国内の自動車メーカーに対し、**2021**年までにすべての車両生産について欧州の排気ガス規制「ユーロ5」を適用することが発表され、プラユット首相から、「このような大気汚染がさらに長引くようであれば、車両の都内への乗り入れ規制も検討する」といった発言もありました。

工場については、国内**10**万件の工場を立ち入り検査し、問題のあった**1700**件の工場のうち、**600**件に対し操業を一時停止させるなどの措置を実施しました。

バンコク都内で建設中の工事に関しても、粉塵対策を強化するよう指導するとともに、今後、建築プロジェクトの許可に対して、環境汚染対策に対する配慮を厳しくするよう法律改正を進めることとしています。

タイ政府が積極的に大気汚染対策に取り組む背景には、**3**月下旬に現在の軍事政権から民政化に向けた選挙が予定されていることも影響しているかもしれませんが、こうした取り組みの積み重ねにより、年々ひどくなるバンコクにおける大気汚染が少しでもきれいになればと思っています。

アジアの都市部では、タイ以外でも大気汚染が問題となっており、これらの原因に、気象条件に加え、経済成長とともに増加する自動車からの排気ガスや、農家による野焼き、暖房用の石炭利用など様々な要因があります。

以前は、中国の大気汚染がよくメディアでも取り上げられていましたが、中国政府も工場の操業停止や都心部への車両乗り入れ規制、さらには巨大な空気清浄機を設置するなど様々な対策を行っており、少しずつ改善しているようです。

今月出張で訪問したインドのデリーは、中国以上に大気汚染が悪いと言われており、特にこの時期は視界不良となる日が多く、度々フライトの遅延が発生しているそうです。

(デリーの様子)



(デリー空港の様子)



経済発展とともに大気汚染が進むアジアの都市部と比べると、日本の空気の良さに改めて気づかされます。

かつては日本も経済成長とともに公害が発生し、空気や川の水が汚染されていましたが、社会問題となり、日本人の健康や環境に対する意識の高まりとともに、生活スタイルや企業活動が変化し、徐々に改善してきました。

今回の大気汚染問題をきっかけに、タイの人々の環境や健康に対する意識がさらに向上し、空気だけでなく水やごみなど、様々な環境問題の改善にもつながっていくことを期待しています。

本資料は、参考資料として情報提供を目的に作成したものです。

バンコク産業情報センターは資料作成にはできる限り正確に記載するよう努力しておりますが、その正確性を保証するものではありません。

本情報の採否は読者の判断で行ってください。

また、万一不利益を被る事態が生じましても当センター及び愛知県等は責任を負うことができませんのでご了承ください。